

「つくばTXをつかってみよう！」における視覚教材の活用の試み

—特別支援学級におけるICT活用を図った学習活動の展開—

つくば市立竹園西小学校 教諭 奥沢 忍

キーワード：特別支援教育、視覚教材、校外学習事前学習

1. 従来の課題

本実践の対象は、3年生3人、5年生1人による自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童である。3年生の1人を除いて著しい知的発達の遅れはない。4人はそれぞれに自閉症スペクトラム障害に位置付き、程度の差はあるが、自己中心性を残している。そのため、相手の気持ちを気にかけることなく、自分の思いだけで接したり、周りの状況や雰囲気を察せずに思いのままに行動したりすることが少なくなく、それがもとで衝突を繰り返すことがしばしば見受けられる。学級担任としては、学習活動を通して、人とかかわる楽しさや人に伝える喜びを味わい、周囲の人ともっとコミュニケーションを図ろうとする意欲を少しでももてるように支援していきたいと考える。

2. 目的・ICT活用のポイント

(1) 目的

遠足で利用する「つくば駅」について調べ、公共機関の利用の仕方を確かめることができる。

(2) ICT活用のポイント

- ・切符の買い求め方や改札の仕方などについての一人一人の実態に基づいた電車の利用にかかわるスキルやマナーを整理し、スライドやバーチャル教材といった視覚教材の制作、開発を進める。
- ・ディスプレイや子供たちの情報端末に、制作した画像や動画を提示し、活用させることにより、事前学習としての学習課題への理解を深め、校外学習への参加意欲を高める。

3. 実践内容

(1) 実践の構想

校外学習では、大型ショッピングセンターでの買い物活動等も含まれているが、本実践では、特に交通機関の利用に視点を当て、電車の利用にかかわるスキルやマナーを設定する。そして、児童の実態に合わせた個別の目標をたて、スライドやバーチャル教材を活用することで、校外学習への期待感を高めながら、切符の買い求め方や改札の仕方などについての課題解決への意欲付けを図る。

(2) 具体的な手立て

昨年の体験を各児童に振り返らせるなかで、事前学習の準備段階から個別の目標を意識させ、教材と一緒に制作する活動を入れることで、参加意欲の高まりを図った。視覚教材の制作では、事前にデジタルカメラでつくば駅構内を撮影し、グループウェアで児童と共に駅の利用の仕方のスライドショーを作成した。また、切符の買い求め方では、できる限り実物に近い操作でできるようにとタブレットパソコンで券売機の画面をモニタリングする形で券売機の模型を製作した。事前学習の展開では、これらの視覚教材を活用し、学級全体で校外学習への参加意欲を高めながら、安心して学習活動にのぞめるようにする。

4. 成果

(1) キーパーソンとしてのB児の設定

本学級に在籍している3年児童B児は、アスペルガー症候群に基づく自閉症スペクトラムをもつ児童である。対人関係や学習に課題はあるものの、乗り物に関心が強く、特に鉄道に関しては、近在の鉄道の駅名や順序だけでなく、各駅で流れているアナウンスの違いや使用されている列車の型番などをそらんじているなど、大人が驚くようなことまで網羅的に記憶している。近在の鉄道のことを話題にするととても嬉しそうに話をする。そこで、B児を本実践のキーパーソンにすることで、本実践の学習の深まりと共にB児の自己肯定感や前向きな姿勢を引き出すことを考えた。

(2) 事前学習用資料の作成

事前学習用資料を作成するにあたっては、キーパーソンとなっているB児に働きかけ、券売機の模型の作成のほか、保護者にも依頼して一緒に乗車駅の構内の様子を写真に撮ってもらった。こうした一連の活動には、B児はこの外喜び、とても意欲的に取り組むことができた。B児の撮った写真画像をもとに、教師と一緒に駅内の案内から始まる鉄道利用の仕方のスライドをグループウェアのスタディノートにて作成することができた。B児の意欲的な活動は他の児童にも刺激を与える形で好影響を与え、路線図にある駅名の掲示資料作りや発表活動への役割分担では、学級児童4人全員で意欲的に取り組むことができた。



写真1 自分でスライド写真資料の取材をする

(3) バーチャル体験のできる券売機の作成

券売機については、当初段ボール箱を利用して模型を作成し、手動による切符の購入を体験する予定であったが、実際の券売機の大半がタッチパネル式となっていることでもあり、バーチャル的にタブレットパソコンのタッチパネルで使える方法を探していたところ、教育教材サイトTOSSランドにコンテンツ学習の形で見えるサイトがあった(No.326「きつぷをかおう」)。このコンテンツは、実物同様に押した行き先の料金の表示に合わせてお金を投入すると切符を購入することができる。おつり等も表示されるので、お金を使ったやり取りの学習もできる。そこで、このサイトをタブレットパソコンの画面に全画面までに拡大表示し、タブレットパソコンに合わせる形で段ボール箱で券売機

の模型を作成してみた。



写真2 タブレットを入れた券売機の模型

(4) 金銭への理解への手立て

校外学習では、本実践での切符の購入活動のほか、大型ショッピングセンターでの買い物活動もあわせて行うが、どちらの活動でも金銭についての理解が必要である。お金の種類や金額通りのお金を用意したりすることについての理解も個々によって異なるため、それぞれの実態に応じて、模擬貨幣を活用したり料金マップ等を用意したりした。また、切符の料金が大人の半額になることや往復でいくらになるのかなどの計算技能にかかわるところについても自力で求めさせたり、必要な金額のお金を用意したりするというように個々によって手立てを工夫していった。

(5) 発表場面を設定する

学習内容・活動	教師の指導・支援
1 はじまりのあいさつをする。	・元気にあいさつができるように声をかける。
2 前時までの学習内容を振り返る。 ・つくば駅について調べたことをまとめる。	・前時までの活動を尋ね学習を振り返ることができるようにする。
3 本時の課題を確認する。 つくば駅について、調べたことを発表しよう。	
4 つくば駅について調べたことを発表する。 ・スライドでつくば駅の様子を確認する。 ・模擬券売機で切符を買い求める方法を確認する。 ・つくばエクスプレスの路線図の見方を確認する。	・各自で分担した内容を最後まで発表できるように励ます。 ・他の発表を最後まで聞くことができるようにする。
5 本時の活動を振り返り感想を発表する。 ・自分の様子を振り返る。 ・自分や友達のよかったところを発表する。	・発表できたことを実感できるように、具体的な言葉を対応させる。
6 次時の活動について知る。	

事前学習のまとめの形として発表活動を行った。発表活動では、自分たちが作成したスライドを使った説明や券売機のバーチャル教材による切符購入の実演を

行った。発表の際、一人一人が成就感をもてるように、発表原稿を用意させたり、教師と一緒に発表させたりするようにさせ、個々の発表に対して、共感できるように称賛していった。一連の活動を通して、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする中で人とかかわりをもつことができ、校外学習への参加意欲を高めることができた。

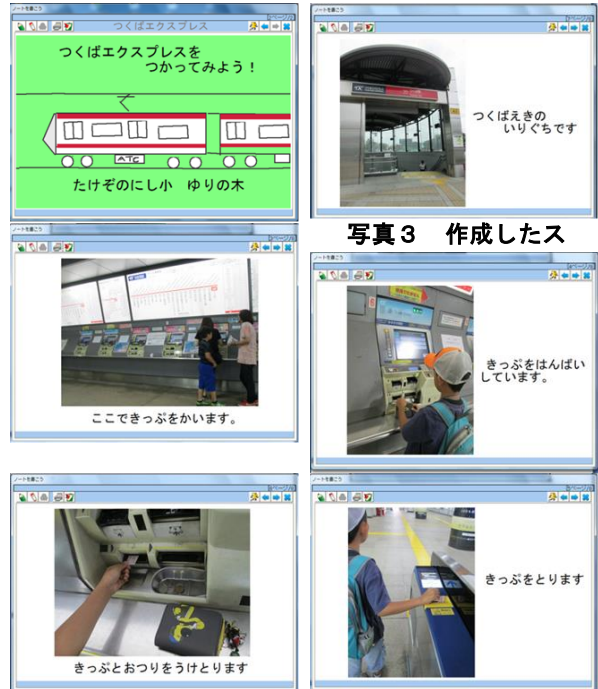


写真3 作成したス

ライド資料(一部)

5. 今後に向けて

本学級に限らず、特別支援学級にはB児のように、鉄道の駅名と順序を大人が驚くほど事細かに記憶しているような子がいる。これは自閉症スペクトラムの児童によく見られる「記憶力の高さ」という特徴にもとづいている。こうした特徴をもつ子は、複数の教科をバランスよく勉強していくことが苦手であり、一つの教科内容であっても深く詳しく学んでいく部分とほとんど興味関心を示さない部分とに分かれやすくなる。特別支援学級では学習対象の極端な偏りを改善していくことも目指すが、一方でそうした分野での興味関心や能力の高さを伸ばし、積極的に褒めてあげることも必要と考える。また、本学級には、対人的な不安を常に抱えている児童もおり、グループ活動を行うにも一人一人の状況に大きく左右されがちである。

こうした特性をもつ特別支援学級において、ICT機器のよさ、すなわち、画像の拡大表示や操作、映像に音声などを容易に活用できることは、情緒的な不安定さを抱える児童にも他の子どもたちと一緒に喜びや達成感を味わう上で大きな役割を果たすことができた。本実践でもICT機器をプレゼンテーションを支援するための手段として使い、スライド作成や発表の場面で効果をあげることができた。

今後もICTのよさを生かした学習活動を通して人とかかわる楽しさや人に伝える喜びを味わい、周囲の人とコミュニケーションを図ろうとする意欲を少しでももてるように支援していきたい。